

知れば知るほど

長岡京

花・竹林を訪ねて

乙訓の名産

竹の葉のささやきが、ここ竹林の中に降るように聞こえてきます。まるでお庭のように美しいたけのこ畑で、真冬の寒さに耐えたたけのこが頭をもたげようとしています。

乙訓地方の土壌は酸性の赤粘土質で光や空気を通しにくいところから品質の高いたけのこが育てられます。この土壌が名産を産んでいるのです。

また、「シロコ」と呼ばれている最高級品のたけのこには、なかなかお目にかかれません。



①日本孟宗竹発祥の地

孟宗竹の孟宗の名前は、古代中国の故事に由来します。少年孟宗は、病床の母が欲しがるとたけのこを藪から掘りあてて母に食べさせました。中国二十四孝のひとりに数えられる孟宗の親孝行のお話です。



京都祇園祭の孟宗山は、この史話からきています。別名筍山ともいいます。長岡京市の寂照院の入り口に孟宗竹を中国から初めて持ち帰ったと伝える石碑があります。中国の禅僧の道元が持ち帰った説や、黄檗山の僧が持ち帰った説など詳細は不明です。

春

<長岡天満宮 キリシマツツジ>



樹齢 100 ~ 150 年
高さ 2.5m、全長 60mに
わたり参道が真紅に染ま
ります。

<八条ヶ池 あやめ>



姉妹都市の伊豆の国市
より寄贈されました。

<乙訓寺 御衣黄桜>



<勝竜寺城公園 枝垂れ桜>



<乙訓寺 牡丹>



<粟生地区 菜の花>



八条ヶ池
普賢象桜

<八条ヶ池 西湖紅蓮>

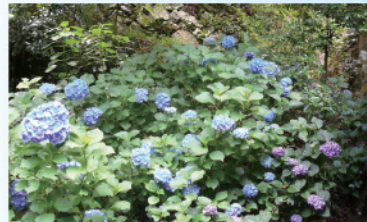


友好都市の中国の寧波
市より寄贈されました。

<八条ヶ池 睡蓮>



<楊谷寺 あじさい>



夏

秋

<長岡天満宮 錦景苑>



<楊谷寺>



<光明寺 もみじ参道>



<乙訓寺>



<JR 長岡京駅前 十月桜>



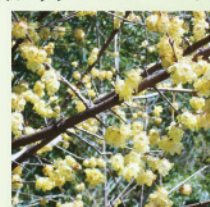
<長岡公園梅林 さくら梅>



<長岡公園梅林 ゆうこう梅>



<長岡京こらさ ろう梅>



冬

②東宮殿下台臨地記念碑

東宮殿下（昭和天皇が皇太子殿下の時）は大正 7 年 4 月 6 日、土御門天皇金原御陵をご参拝になりました。その後、新神足村の孟宗藪（現梅が丘 1 丁目）でたけのこ掘りの状況を御覧になりました。この時の記念碑が梅が丘の小公園に建っています。



③体験型観光竹林



長岡京市観光協会では、たけのこを多くの市民や観光客に PR するためにたけのこ掘り体験をここ数年 4 月に実施しています。広報ながおきょうや観光協会ホームページなどで応募を呼びかけています。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

たけのこづくりの 1 年

お彼岸を過ぎてからの「ぬく雨」を経て、たけのこの収穫は 4 月の後半が最盛期です。地表の割れ目を見つけて、ペリカンの口ばしにも似た「ホリ」で地中にいるたけのこを掘ります。穂先を見れば、太さも長さもわかるそうです。収穫の最中に親竹の選定をします。たけのこ段階での穂先



でどんな行儀の親竹に育つかわかるそうです。生産農家の並々ならぬ労苦と一年を通しての竹藪への愛情から産まれる農家の目は至芸です。収穫の初期の穴肥は後半に出てくるたけのこの生長を促します。5 月末には先止め、草取りは年中ですが夏は入念にそしてお盆過ぎから 10 月までは古くなった親竹を伐る親竹更新、冬の足音がするころ敷藁の作業に入ります。たけのこの布団です。この作業が終わると藁の上に土をかぶせる土入れです。この作業はともしんどいのです。今は機械がありますが、昔は人力でした。農家の人は、「藪はかわいいですわな」と言っておられます。